

神が与えて下さる新しい生き方。

①偽りを捨て真実を語る。：25。

②怒っても罪を犯さない。：26，27。

③盗みをせず、施しをするために正しい仕事をする。：28。

本日の箇所は、第④の神による新しい生き方！ 消極面と積極面。これが救いの素晴らしさ。

I 「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません」：29。

1. 「悪い」の意：腐っている（心が腐っていると腐った言葉が出て来る）、悪い、役に立たない。

悪い言葉＝人の徳を養わない言葉。人を傷つける言葉。

私達の言葉は、人を殺す事も、生かす事もする。

「昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる（悪や罪に向かっての怒りではなく、人への怒り。敵意、憎しみ、恨み。殺人につながる怒り）者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能無し』と言うような者は、最高議会（最高裁判所）に引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナ（地獄）に投げ込まれます」（マタイ5：21，22）。

主の十字架の恵みがなければ、私達は、とっくに裁かれ滅びていた。神の恵みを感謝します！

人のした悪い事を祈りつつ愛をもって正す事は、人の徳を立てる、人を成長させる。しかし、人のした悪い「事」への忠告ではなく、「あなたは、能無しだ、ばかだ、価値のない人間だ」というその人の人格をけなす、攻撃する言葉は、人を傷つけ、人を霊的に殺す事。互いに愛をもって真実に当人に語る事をせず、陰で、他の人に悪口として言う事も、捨てるべき悪い言葉。悪口を引き出す言葉にも気を付けたい。悪い言葉は、教会の御霊の一致を壊す。

2. 私達は、実際の「行為」よりも「ことば」の罪の重みを軽く考えるかもしれない。

しかし、主は、こう言われた。

「心に満ちていることを口が話すのです。良い人は、良い倉から良い物を取り出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を取り出すものです。わたしはあなたがたに、こう言いましょう。人はその口にするあらゆるむだなことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。あなたが正しいとされるのは、あなたがたのことばであり、罪に定められるのも、あなたのことばによるのです」（マタイ12：34-37）。

主の再臨の時に行われる厳粛な事。ですから→「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません」。安易に「ああ、またやってしまった」という軽い態度、安易な繰り返しではなく、真剣な悔い改めが必要。「いっさい」と言われている。ほんの少しくらいではない。

御言葉は真剣です！私達が、心で、ある人を怒り、憎み、人を傷つけたり、悪口を言う時、私達の心に住んでおられる神である聖霊は、深く悲しまれる。

「神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖い（救いの完成、主の再臨の時）の日のために、聖霊によって証印（真の救いの保証）を押されているのです」：30。

人格をお持ちの御聖霊の悲しみは、私達の心に伝わる。御聖霊が私達の心に住んでおられる事が救いの証印、保証である。御聖霊の内住の印は、私達が自分の罪を認め、その罪の為に主が十字架で死なれた事を信じる信仰告白。

「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません」 I コリント 12 : 9。

聖霊は、罪を悔いるだけではなく、新しく「改める」本気の応答を助けて下さる→

①自分の口から、良い言葉ではなく、悪い言葉が出易いと自覚させられる。

「それ（舌）は少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています。私たちは、舌をもって、主である父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろいます」ヤコブ 3 : 8, 9。

②自分の弱さを自覚し、人と会う前に、会に出席する前に心から祈る。

「口、舌と私の心を聖めて下さい。悪い会話になびかないように守って下さい」と。

「主よ。私の口に見張りを置き、私のくちびるの戸を守ってください」と。詩篇 141 : 3。

③会話の最中、会の最中も、すべての言葉を神が聞いておられる事、心に御聖霊がおられる事を自覚し意識する。悪口に加担せず、御聖霊に導かれ、建徳的な事を語る。

II 「ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい」： 29。

御聖霊の新生による新しい生き方。

1. 「必要なとき」。施しも。（「必要」は、28節の「困っている」と同じ原語）、良い言葉も自分勝手に語る（一方的にしゃべりまくる）のではなく、神からいただく知恵、判断力を祈り求めて（ヤコブ 1 : 5）、真の必要に応じて話す事が出来ますように。

「語るに早い」ではなく、「良く聞く」事が大切！

「聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい」（ヤコブ 1 : 19）。

おそくし、祈ると神が働いて下さる。

2. 「人の徳を養うのに役立つことば」 = 人の霊的成長に役立つ言葉。

教会の一致を保ち、教会の建て上げに役立つ言葉。

「お互いの霊的成長に役立つことを追い求めましょう」ローマ 14 : 19。

人の思いから出る言葉ではなく、人の徳を養う御言葉と内住の御聖霊に導かれる言葉。

その為には、自分自身が、御言葉に養われ続け、御聖霊に心を支配していただく、御霊に満たされる事が大切。心に満ちているものが、口から出る。

「聞く人に恵みを与えなさい」。

聞く人に害を与えるのではなく、必要に応じ、徳を高める言葉により、恵み、霊的成長、励まし、神を見上げる恵みを与えることが出来ますように。

3. 神が私達に、口を与えられたのは、悪口を言う為ではなく、

①神を賛美し（「私の口には、いつも、主への賛美がある」詩篇 34 : 1）、

②互いに励まし合い、互いに徳を高め合い（I テサ 5 : 11）、

③主の御言葉、福音を人々に宣べ伝える為！